

塩尻

四十五

大政官文庫			
		一	和
		一	書
		四	
		九	
		七	
六	二	一	
五	二	一	
冊	架	函	冊

内閣文庫			
		一	和
		一	書
		四	
		九	
		七	
二	二	一	
函	架	冊	架

内閣文庫			
番號	和	11497	
冊數	65 (45)		
函號	211	302	

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



文政部省

同公書
文庫

日山
藏

知恩院

勅會日光東漸大師五百年御忌法事次第

前日檢校堂内莊嚴衆僧座席并樂器等

當日寅刻於樂屋奏亂聲三篇奏神分好

刻限先鳴鐘集僧

一番作相外座僧血集會堂内九右席着座

二番作相公卿殿上人并地下官人叅堂

職衆集會三門内之幄屋前

四十五内一二七九〇號

道師兼輿供奉行列

次平僧前治詠者着出居座奉行頭治詠者着出居座

次公卿着座次道導師入於幄內手次於樂屋手發亂聲手

次衆僧前左者九右相分率於衆僧手衆僧進歩行列手

衆僧前九右各列頭九右各讚卑五右各梵音卑九右各散華衆六右各

左右各洒水一人唄師左右各長老卑坊左右各

次衆僧前到階下右止立衆僧入堂各守テ標任立而

後着座着

四下止

次迎導師手舞人樂人出樂屋外左右列立鳥蝶同列八五人

次吹調子手調次樂行事手枕率手舞人樂人參向幄前手列

左八樂行事手舞人為先迦陵頻手樂人手

右八樂行事手舞人為先胡蝶手樂人手

次作樂鳥向樂一曲奏畢賜手祿手左右手

次導師出手幄執網手二人執蓋手一人持幡手皇手左手從僧手九手各手

十手弟子手徒手後手上童手并坊官手御後官人手趨手非供奉手

衆僧前手尚右手階下手枕止立手

衆僧前手尚右手階下手枕止立手

次導師上堂執香炉着礼席樂止衆僧前退出

執網執蓋退入樂行夏率舞人樂人入於樂屋

從僧先進并備道具礼席展坐具高座敷草座

前机安居管照机安香炉管共如意設罽着外座

次惣禮伽院發聲吹音取作樂廻孟樂

導師三禮登高座衆僧同唱十天子着座

次樂止

次堂童子四人着座圖書寮ヲ爲先

次圖書官人鳴金鼓ニ下作樂十天樂

傳供 正面階級左右列童子八人階上左右列

童子十人

左右童子各執供具授十天子十天子次授備堂内机上

次殿上人之布施取捧佛布施備高座之照机上

吹振柁ニ第次供舞左迦陵頻舞罽入於樂屋ニ

次鳴金鼓ニ下作樂ヲ胡飲酒

頌師右二人座起着ニ左右之座ニ同坐罽發聲

賦_ニ筆_ヲ寫_シ堂_ニ童子_ニ孟_ノ人_ノ左右_ニ相_テ分_テ圖書_ヲ察_シ爲_シ先_ト
就_シ筆_ヲ寫_シ札_下

圖書_ヲ執_テ筆_ヲ寫_シ授_テ堂_ニ童子_ニ堂_ニ童子_ニ授_テ殿_上人_ニ殿_上人_ニ次_ニ才_ト

賦_ニ導師_并僧_正兩人_前次_ニ圖書_又執_テ筆_ヲ寫_シ授_テ堂_ニ童子_堂

童_分賦_ス左右_三人_衆僧_引但_除引_頭賦_畢復_座

次_ニ平_僧之_外座_起立_ス作_レ樂_ヲ賀_カ殿_急

散_筆師_人衆_僧同_唱散_筆畢_樂止

衆_僧着_座唄_師復_座次_鳴金_鼓下

作_レ樂_ヲ拔_頭

讚_衆起_立唱_テ讚_讚頭_又執_テ鼓_餘者_執筆_寫職_衆起_立助_音讚_畢鳴_鼓

樂_止着_座

次_鳴金_鼓下_作樂_ヲ梵_音衆_起立_作梵_ヲ

音_頭二人_執香_炉職_衆起_立唱_和梵_畢着_座樂_止

次_鳴金_鼓下_供舞_九方_又樂_右延_喜樂

撤_筆寫_{導師}并_僧正_兩人_之筆_寫畢_撤之

衆_僧之_筆寫_堂童_復撤_之

圖書寮就筆管_ヲ札下_ニ各授_テ圖書_ニ扱_ル之_ヲ

次_ニ導師唱導

神分_ニ表白_シ 諷誦_ス 發願_ス 四弘_ス 咒願_ス

佛名_ヲ 讚嘆_ス 隨意_ニ 廻向_ス

次_ニ後伽陀發聲_シ 鳴_ス金鼓_ヲ 作_ス樂_ヲ 長慶子

導師下_リ高座_ヲ 執_リ香炉_ヲ 着_キ礼席_ニ 禮拜_シ 向退_リ 着_キ

樂止_ム

次_ニ被物

左_ニ耳_ヲ 州_ノ 太平樂_ヲ 陵王_ノ

右_ニ登天樂_ヲ 古鳥_ノ 籥_ヲ 納籥_ノ 利

撤_ス被物_ヲ 導師之被物_ハ 坊官二人撤_ス之_ヲ 僧正

兩人之被物_ハ 侍者

二人 撤_ス之_ヲ 長老十三人各自撤_ス之_ヲ

次_ニ衆僧退出_シ 先_ツ下_リ 次_ニ上_リ 膺_ノ 左右_ニ 二行

次_ニ退去

導師、唐織一重大納言厚板一重中納言

縫薄一重宰相

大僧正、白綾一重大納言同一重中納言

僧正、白綾一重中納言同一重宰相

長老十五人、各平絹一重殿上人五人

次、導師并僧正兩人之被物、御藏出納、極薦公塲

長老十三人、被物御藏出納殿上人

次、從僧十弟子降階下、執蓋進末、執綱

如入堂之儀

衆僧先行

次、導師退出、如入儀、還列、還城樂到、幄前

衆樂

寶永八年正月廿二日

辰半刻一番、作相已上刻二番作相末下刻法事

畢、以不日暮、主殿寮無立庭燎之儀

西園寺大納言着座ノ公卿 致秀

日野中納言輝元 六條宰相有藤

奉行

耳露寺頭辨尚長 烏丸右少辨光榮

樂行事

持明院中將基雄 綾小路中將俊宗

布施取殿上人

唐橋侍從 豐岡右兵衛佐 梅小路左兵衛佐

岡崎左衛門佐 高丘侍從

執綱シカド

藤井氏部權太輔 澤修理權大夫

執蓋シカケ

慈光寺極願

地下役人衆僧前 小林主税頭 藤木下野守

堂童子

津幡刑部權少輔 高橋大隅守 難波左京亮

藤木右近衛將監

出納右近衛將監

御藏真繼 刑部少輔

圖書寮小佐治隱岐守

主殿寮小野治部丞 小野兵部丞

樂人五十八人

知恩院宮

導師二品法親王尊統大和尚

衆僧

大谷寺方丈

大僧正應譽

院家了院

僧正空譽

會奉行一人

長老十三人

明師共

散華衆十人

伽陀一人

讚衆十人

十弟子十人

梵音衆十三人

門中

園宮內卿法印

從僧四人

增官三人

角田大藏卿

岩波刑部卿

一番一心院衆 十人

上使松平紀伊守源信庸

聚會同衣上人六百八十口出世僧侶凡二千余人

自_リ廿日至_ラ廿四日_ニ初夜礼讚說法_ノ二七余入

上野右行列

一番

自_リ御本坊_ニ至_リ三門_内幄屋_ニ行列

并_テ一心院

門中_{四ヶ寺}

先_キ拂_ヒ

長老

侍者 同
白張同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

青侍 十人

小結 三人

大童子

中童子

同

持幡童

中童小童

大童座具

草座

香篋

同

十笏子五人

同

侍法師

侍法師

先白景

同先師

法親王御輿

打懸教輩

布衣三人

布衣三人

御傘

草鞋

鼻高

青侍

青侍

青侍

上童

童

童

布衣

同

傘持

杏持

持青侍 同 杏同

坊官 同

青侍 青侍

傘持士 杏持

青侍 同

白張十人 同

御後官人

青侍 同

傘 杏

二番 同

衆僧入堂 幄前行列

玄番寮 治部省

贊衆 五人 同

三番 梵音衆 五人 同

散華衆 五人 同

洒水 同

土人五人 同

唄師 同

三番 同

御道守師迎樂人參向行列

古香樂行事 同

樂師舞三人 同

二番 鳥二人 蝶二人

伶人 伶人

御道守師入堂幄前行列

持幡童 同

座具 草座

從僧 同

香炉 居宮

從僧 同

御道守師 尊統法親王

執網 執網

布衣二人 布衣二人

御前執蓋

三番 布衣同同同

御前僧五人 御前僧五人

御前上童 同

童子 童子

中童子 同二人

大童子 同二人

○ 勅謚圓光東漸大師記事畧

御右公以梁道大僧都之本ヲ写シ之畢又梁道八知恩院官僧也

檢非違使

御後官人

坊官

坊官

大師本姓源氏

仁明天皇皇子正二位右大臣源光公ノ後式部
太麻源年始テ移住ス作列

其先冒母氏ヲ称ス漆年ノ男絶キ外祖漆之國
之哀ヲ号シ盛行称漆氏ヲ作列稻園

人也父ハ時國盛行之曾孫母ハ泰氏長承二年癸丑四

月七日降誕今誕生寺之地也児字称ス繁至一九歳喪

其父入郡菩提寺トス師觀覺称ス智鏡廣性善ヲ習学

覺嘆メ其器送リ與フ延曆寺ノ源光光モ亦

見テ峻爽ヲ附ス功德院皇圓於テ此刻落受戒

年十丑三暮之間通シ受シ台教ヲ久安六年九

入ニ黑谷ノ叡空上人之室ニ禀シ密藏及大乘

律ヲ田戒一流ノ祖良
悉ノ相表也凡三藏並諸宗章疏靡シ不檢

閱セ南都藏俊贈僧
正醍醐慶雅等嘆シ称シ之ヲ又

八宗外ニ涉テ佛心宗ニ得ニ幽致兼安五年依ニ

往生要集ニ皈メ善導大師之疏ニ乃倡フ淨土專

修之宗ヲ遂ニ出テ黑谷ヲ居ヲ浴東吉水盛ニ說シ專

修及圓頓菩薩大戒ヲ緇白靡然トシ向フ風ニ嘉

應帝召入レ宮ニ受戒シ藤相國實延向淨土

宗義ヲ大師述メ選擇本願念佛集ヲ呈シ之ヲ實
蓮社秘要也天台座主顯真正僧止觀院證真東
塔靜巖寺長更公僧高野山明遍等皆
細林之翹楚也共從ラ大師修ヤリ專念之行ヲ大
師念終人勤シ三昧發得シ屢感セリ勝相建永二
年三月往テ讚列ニ弘專終之宗ヲ於海裏建曆
元年奉詔再皈都城居リ浴東大谷ニ今知恩院
二年壬申正月廿三日入滅春秋八十僧臘六十

年也葬ス大谷然レ後遺第各弘通ス淨ノ宗
風ヲ就中鎮西善導寺ノ弁阿西山善峯寺ノ證
空得ラ其宗ヲ而正義普布シ四海ニ此ノ兩師ハ實大
師嗣法ノ正流也安貞二年改葬ス粟生
今光明寺念佛三昧院長也

○知恩院追宗畧記

知恩院慈惠大師ノ所創ス始ハ号ス南禪院ト後改テ号ス妙香院ト前ノ大僧正慈圓改テ額知恩院ト号ス大谷寺ト又謂フ吉水院ト

後白河院勅シ号ス惠光菩薩ト上人号香衣リ勅アリ

見ニテリ 勅謚大衆菩薩澄圓和尚
椰子伏象謚下モ同

後嵯峨院重テ謚ニ普通菩薩ト又勅ノ号ニ通明国師

寛元二年甲辰正月十日行幸メ
知恩院ニ賜フ謚号ニ

後柏原院 勅以テ知恩院ヲ爲ニ浄土宗ノ惣本寺重テ

謚ノ号ニ光照大士ト賜フ宸翰知恩院勅額ヲ

後奈良院重テ賜フ惣本寺之綸旨ヲ

後陽成院勅以テ皇子良純法親王ヲ爲ニ知恩院ノ貫

主ト是御門跡
之始ナリ

自此代々相續 畧ス之ヲ

佛元如一國師 第九ノ住職

行蓮社滿譽尊照僧正 中興之祖元和六年
六月廿五日寂ス

御門跡

二品 良純法親王 後陽成院皇子

二品 尊光法親王 後水尾院皇子

二品 尊統法親王 仙洞皇子 將軍綱吉公ノ猶子

前大僧正 應譽上人 當寺大僧
正之始

院家

寛了院僧正空誉上人院家僧正之始

其他僧都多し

○浄土家勅謚菩薩号三人

普通光照大菩薩法然上人大乗澄圓菩薩泉加阿陀院經寺旭蓮社智田上人

智通興正菩薩濃列市橋莊三改寺(用)祖

○勅賜國師号四人

惠光通明國師法然上人佛之惠照國師浄華院三世等祖上人

佛元如一國師知恩院九世普光觀智國師武列増上寺什二世中真祖

太上天皇ノ元禄九年丙子十月大樹執奏アヒテヒモテ請ニ徽

号ヲ十年丁丑正月二日勅許大師号ヲ十八日

勅使九右衛門允清原宜通登ニ知恩院ニ納ニ勅書ノ号ニス

圓光大師ト

寶永七年庚寅九月四日新上西門院以緋衣及ヒ

錦ノ袈裟ヲ授ケ粟生ノ光明寺ノ真影ニ

今上聖皇帝皇ニ寵章ヲ宝永八年辛卯五月十七

日賜ニ仙洞震峯ノ花頂山ノ勅額ヲ十八日差ニ

勅使前権中納言時方卿^ヲ捧^{ケテ}勅書^ヲ加^シ謚^{シテ}東

漸大師^ト二十一日^ニ勅會^ス職法修^{シテ}大師五百年

御忌^ヲ御忌稱呼後柏
原院勅許也

大樹殿下使侍從兼紀伊守源信慈朝臣^ヲ献^{シテ}香儀^ヲ

白銀一千枚 供米三百石 賜^リ下乘^ノ碑^ヲ
元法會中下行皆関東之命也

○洛東勅願定額花頂山知恩院大谷寺

開山第一祖圓光東漸大師^ノ御忌^ノ十八日

第二祖勢觀上人^ノ御忌^ノ二十一日備中守平師盛之男
曆仁元年三月十二日寂ス

○大僧正勅授始

貞譽大僧正増上寺方丈依^テ常憲院贈大相國之執表^ニ也
自此代任^ス大僧正^ニ

凡淨土宗諸流之義見^ヲ東大寺戒壇院二世示觀

上人所述^ニ淨土法門源流章^ニ

○室永七年^ニ春^ニ家^ノ府^ノ下^ニ西^ノ光^ノ院^ヲ開^キシ^テ光^ノ大^ノ師^ト

公百年^ノ御忌^ヲ行^ハシ^テ公^ノ友^ニに^テ達^ス一^ノ言^ヲ案^ニ乃^テ設

每^ノ後^ニ行^ハシ^テ廿^ニ年^ヲ辛^卯正^月飛^鳥係^曼艾^木羅^寺

初^日乃^テ祐^福寺^乃及^ヒ勢^田地^正之^チ豫^官に^テ清^ク

御忌乃は春に青葉の清き朝を曉すしはれり
恒例と仰るるは紫葱いと清に潤しはる

○五月雨を梅華としは赤徴多し書次梅もるに度

に氣にハ三四月露雨不止物皆徴腐多しは梅も

と云蓋し梅子青黄の時に當り故のこ徐誰かし

て北ハ春夏ハ常ニ早多六七月の交霖多し

こ水と徴雨としりて也五雜組の意は梅の言

しりてわしは年むじ五月とめし梅もるは

我國さきよりと徴多るをいふとわしは梅もる

四時暮寒にハ梅熟しは雨多し梅もると云項研

録し國人之夏此後の庚子自は入梅し

芒種の後乃と出梅しすとりはれり

と等しきと也

○鯉魚風八月の黄省風六月東南乃風

送レ窮正月晦日也月
冬為レ窮迎レ福二月二日也月
新為レ福

○臘日ハ十二月とめし云るは次道家には正月一日

と天臘と云五月六日と地臘と云七月七日と道德
臘と云十月一日と民歳臘と云十一月の臘日
也ハ王侯臘と呼也

○魚水中に在りて水と見し人の氣中に在りて氣と
して下帷屋漏日光乃中に於て塵埃衰々
と々々奔忙と々々々々々々々々々々々々々々々々
内と雖トモ靜と々々々々々々々々々々々々々々々々
馳との有トモ々々々々々々々々々々々々々々々々

○韃靼乃種類生まきと瘰癧瘰癧疾ふと々々
鹽醋と不食と以乃故也と々々其今世疾有
ハ中国と交市して中国に飲食と學ぶるは
瘰癧瘰癧瘰癧と一人世病有まきを學びて源谷中
に置か其生死め住る跡と絶く親族と々々
教して省視すと々々我國ハ丈嶋瘰癧瘰癧と病
との有と々々々々紀品徳望の出来乃里と

かや乃俗と蕪人乃く山中に置て何く飲
 食は始くと初るくもて樹枝をくく
 捨く走り海くくといふ不仁ある事ありり
 我國は福徳吉ふ世し李氏帝の天平年中
 重珠に天下これ凍く人死に到る事
 多かり漢海云の事四人天平九年門一病
 ほと失す好ひ

武智磨 房前
 宇合磨 ちれ 疫瘡の造

遇へて比屋皆安一若其山氣一降く天札
 麻の如一村一市の中競観とく男如く
 形一極をふくまに到る醫藥不及祈祀不驗
 一人力の如何と母はくもふ記者歟王者貴み
 と以上毎亦まぬ事あり況や下機を也先下
 後光昭帝世病一山崩一
兼應三年九月二十日
 宝算二十二
 去々年 東山院も亦一病に一為所治
寶永六年十一月七日
 宝算二十五 今上乃沸ぬ云と亦一病に

抱瘡はく如れは路をまじりては近き
病にほぬみし大塚死すまじる去る
世年春の弓家尾府下及在る乃流石常にて
しとわすは昔死すて取るふぬと悲願
哀声我身望する濃参等と示ししとや
風葉の身いれぬは死すたるとか
命に遂に消ゆしと有る事や

迦川乃田のぬ水の家世にいづれは消ゆし死

○ 横家清花大長谷家物語のむす代々のむす家の
元昇教比くくも 帝王のくくも 何と候し
昇教はるに非中一度地におりて系 執し
昇教せしめまふ

○ 系別に講を記し事有たよハ其官辞表の
後改る者ハ初め各と記中ありし由清教まきま

良嗣 改忠嗣

諸家傳

如新書ス亦地下有る昇教と聽くまじりて始

公卿に進し其時乃名を室町と改

高氏 改尊氏 同上

又大臣公卿と至る此人在官れり名を改
ふとハ坊の名紙書ス

義教 元ハ義宣 同上

義教初ハ僧三十八の時東管一叙爵乃時陳座

乃官下有世ハ義宣と稱ス永享元年二月
將軍宣下の時義教と改ま一也是後乃名紙
書せり

義政 元ハ義成 同上

義成ハ名ハ父女之年御名定メの時震尊と深
らま一講外と一享徳二年位一後
義政と改ま一是と永後の名紙書せり
世等の例と一く一と一書屋所と一し地中乃ハ

或は此と此を強しうれ下一抱る人ふ及とし人
凡其の中一ととあると興一亦を強く久しき
官位もを任叙わしとす時此名を書し及希し
注し角一カ系體乃法志初書し心候也書
是後には實録此人をく爲く少候と毎也
○臺上兼官多しと之れ中一官位以て稱て
らる

高辻少納言 総長内記文章侍士
と兼せり

舟橋式部少輔 尚書
兼せり

世類に御より成事々 公方候は御連枝及び尾
張紀伊水戸此外と公々としくも唯初乃し
受腹八省等乃官をのこす

松平加賀守 参議從三位也

松平薩摩守 右近衛中將也

或ハ少將侍從に昇進有くと右乃と一是ハ
公方候と憚りて 如此今日乃風俗をまはせ候

非と云ふと拾ふ... 俗貴士の半と記し... 平岩七之助親元

○平岩主計頭了削親吉一平岩七之助親元

生山城國伏見
駿河大納言家奉公大納言家
御事之後小笠原右近將監御
預豊前國小倉ニテ病死ス

女子

女

堀勘解由

仕増山彈正少弼
堀勘解由養子トル

堀隼人信重

仕増山兵部少輔

平岩七之助

右堀隼人信重天野小夏右衛門方へ嫁りて返り

見ゆ... 記不親吉子孫

とりふ... 勢州長崎

増山家の家入めく

○當府録の師家虎尾孫多清源の長孫方録

越前人
虎尾孫兵衛
仕豊臣家

車轉勤兵衛
浪人

由邊八左衛門
始大野主馬家後任
尾公

佐分吉兵衛
此分派也

津田權之丞

始佐分弟子佐分車轉讓リテ其許可ヲ讀ム

津田一孫相續

林半之丞

○ 當府礼家吉良派

三刃

吉良若狭守

朝岡伊与

朝岡七兵衛

服部小十郎

朝岡弥五右衛門

朝岡弥次夫

朝岡傳藏

朝岡甚五右衛門

朝岡元右衛門

朝岡善右衛門

女子

朝岡弥次兵衛妻

朝岡弥次兵衛

本名青山

朝岡丹内

弥五衛門婿ニテ礼家ヲ續ク

○尾列洋嶋四家七名字寄合組

備、

一番

洋嶋

堀田宮五郎

恒川久藏

大橋清兵衛

寄合

野々村又右衛門

中村弥助

人数三千外出夫共

飯沼勘平

守山村 大永寺村 大曾根村 井田村

井納村 稻葉村 瀬戸川村 赤津村

右八ヶ村之内三千五百四十三石分之支出

津嶋勢外心

二番

津嶋

大橋長兵衛

河村久五郎

光賀三右衛門

寄合

鷺巣主水

森 弥五郎

武藤 十郎

人数二千七百外 出夫共

平嶋村 佐屋村 高木村 上奈良村

町屋村 佐野村 一色村 時嶋村

大山寺村 河北村 栗栖村

右十一ヶ村之内五千三百石九計分之支出津嶋惣外

織田 勘七郎 大橋清兵衛子息

山川 傳五衛門

中根 越中 三河流

平野 右京

河村久四郎

右一組

服部平左衛門

光賀三四郎

林 宗兵衛

表濃流

鈴木三郎次

真野大藏

岡本孫六郎

右一組

人殺世千八百五十三人

元龜三年申

右或古家に在りて写し傳ふ外此地先きの

士組合と亦推して知れぬ中世以来國人軍

事此時組合とて大抵右の如く兵士を昔合如

氏乃勇壯威名とて大出して人殺幾と書記せ

今のところを端國等とて大平日久とて

氏林に席上乃礼仕とのき稽より一軍するハ知
 ずるに似たりはつに衣服を憚りし飲
 食を好嗜し色慾を溺き遊戯を専らするは
 海云の如くゆるゆるに町人に等しくして
 傲り且惜まざるはとととを窮理の字ふら
 治教の及ぶを初より馬鹿藝に拙りハ世の
 名のみめして吾輩にうとよりし海内通
 常にある者ハ唯諦媚と巧みして権勢に迫る者

内縁をきく名術を以て利禄を定職として
 内縁をきく者ハ風俗といふれり下には惜く
 懐きしきみたりしを

○ 岡中自高山至平地截之為田遠望如核真
 昔人所云無涓滴不為用山到崔嵬尽力
 耕者可謂無遺地矣 五雜俎

我國今諸國山を以て各自山に至るは
 下は望み東に下りし河を秋ふりし富士の

獲けたりとつるに於て麥秀色見ゆ一休
漢李世に生る人生齒年々に繁く食不足
新田開圃此も多しと谷を田畠と仰るは
上古井田の法と云ふ氏を如く多しと
少き事知しむ

○ 閩中仕宦富室相競畜田ラ食官勢族有リ
畛一隰遍^{ニキ}於耕境^{者ノ云}同上

我國今の風俗仕宦大高^シ田圃と畜

氏と利と争ふ亦吳邦と不^レ吳我^ニ府下の新
高黨一^レ士庶乃金有^ル者^ト歎^主有^ル田
富と以^テ謀計一^レ資一^レめと如^ク誣^ハ僞
了ふとせしむ去年乃冬半^ノ運^所人^大
七輩出奔せし資^一と如^ク運^所人^大
田畠ハふく金^一と本意^ハ此^ノ由^多
か^レと^レ其^ノ勢^ハ富^一と^レ利^ハ
人^一と^レ貪^リ知^テ欺^元

に及^レ魚^ヲ 釣^キて 彼此^ノ 貪^ル 乃^チ 字^ヲ 有^リて
ふん 女^ノ 乃^チ ぬ^ル 牛^ノ の^チ 有^リと^ス 其^ノ 人^ノ 有^リて

○ 和^ス 雪^ニ 峯^ニ 和^ス 尚^ニ 春^ニ 詠^フ

倏^ニ 忽^ニ 韶^ニ 光^ニ 裏^ニ

雲^ニ 山^ニ 賞^ス 意^ニ 恢^ニ

林^ニ 深^ニ 憐^ニ 鳥^ノ 啼^ク

風^ニ 静^ニ 寂^ニ 花^ノ 用^ニ

藜^ニ 杖^ニ 迷^ル 路^ヲ

古^ノ 硯^ニ 耻^ニ 有^リ 埃^ニ

送^ル 春^ニ 轉^ス 無^ク 語^ル

柳^ノ 下^ニ 獨^リ 盤^シ 徊^ル

○ 文^{トヒ} 鷓^ウ 魚^ヲ

漁^人 其^生 乃^リ 持^ル 乃^チ 有^リ 乃^チ 有^リ



○宝永七年 水戸公禊儀類典五百卷と 柳宮家

一献一の山一撰家一萃族等乃名記其礼或
新者と類一撰一此一源義公五十七年
乃沖精一なり

○小野小櫻天文年中乃官女しありく之外

幡頭一に一死一し一き一子一住一り一処一と一乃一小野

谷一と一山一撰一後一浦一彈一正一忠一房一に一嫁一し一

男子一と一生一む

三浦彈正忠保房 — 三浦勘解由保清

母小野小桜

小野修理亮時房

目月ス母姓ヲ

高野山 庫

此一紙、海雲法師京よりぬく送りし処し

山形紀伊郡下馬羽戀塚寺縁記

柳恋塚寺の中、人王七十一代、近江院の御時、に城南此難、みごとく世鳥此里に皇居あり、
まは其は、
盛をこまき者有、或人、に院の御、御守護、
まは、
娘、
心、
先、
不、
天、
本、
涙、



之や、
文、
恋、
右、
盤、
婦、
か、

富寺、高雄

文覺上人開基之地也

戀塚寺



天、元、年、元、祿、六、酉、歲、迄、到、百、五、十、年



